政務活動費　活動実績報告書

件名	神奈川県横浜市、新潟県三条市、見附市
使途	○1 調査研究費　　2 研修費　　3 要請・陳情活動費
金額	１０５３３８　円
期日	令和　８年　８月１８日（火）～２０日（木）
場所	横浜市　国際親善総合病院、三条市役所、見附市役所
目的	自治体が抱える医療施設の老朽化、行政運営の効率化、地域活性化及び市民の健康づくり等の課題に対する先進的な取組について調査し、今後の八女市の施策や議会活動に生かすことを目的とする。 具体的には、横浜市国際親善総合病院における病院機能を維持しながら行う改修・増築による再整備、新潟県三条市におけるふるさと納税、働き方改革及びDX推進、新潟県見附市における健康を軸としたまちづくりについて視察・調査を行う。
参加者	政策ミライ５名＋花下議員
所感	今回の視察では、施設整備、ふるさと納税、行政 DX、健康づくりと、それぞれ異なる分野の取組を学んだが、共通して感じたのは、**「新しく大きなものをつくること」**だけが行政の解決策ではないということだった。 横浜市国際親善総合病院では、病院を全面的に建て替えるのではなく、既存施設を活用しながら改修・増築を行う「居ながら改修」の手法について話を伺った。医療機能を継続しながら段階的に再整備を進めることには難しさもある一方、将来的な人口減少や医療需要の変化まで考えれば、現在と同規模あるいはそれ以上の施設を新たにつくることだけが最適解ではない。既存施設をできる限り生かし、将来負担を抑えながら必要な機能を確保していく考え方は、今後人口減少がさらに進む八女市にとっても大変参考になると感じた。 三条市では、若い市長の下で、行政内部だけですべてを完結させるのではなく、民間で経験を積んだ人材や専門人材を積極的に活用している点が印象に残った。デザインや情報発信、ふるさと納税のプロデュースなど、それぞれの分野で専門性を持つ人材を活用することにより、行政の発想だけでは生まれにくい成果につなげていると感じた。働き方改革やDXについても、単なるシステム導入ではなく、仕事そのものの進め方を見直そうとしている点に学ぶところが多かった。

	特にふるさと納税については、返礼品を通じて地域産品を全国に発信し、地域事業者の売上や知名度向上につなげられる大きな可能性がある。一方で、全国の自治体間で返礼品競争が過熱し、広告費、ポータルサイト手数料、委託費など多くの経費を要する制度にもなっている。寄附額そのものを増やすことだけを目標にすると、本来地域に残すべき財源が経費として外部に流出したり、返礼品の価格競争に陥ったりする可能性もある。また、制度変更の影響を受けやすく、特定の返礼品や仲介事業者に依存した仕組みは持続性という点でも課題がある。今後は寄附額だけで成果を評価するのではなく、地域産業の育成や関係人口の拡大、実際に地域に残る利益まで含めて考える必要があると感じた。 見附市では、健康を中心に据えたまちづくりそのものも興味深かったが、特に印象に残ったのは、市役所の隣にあったスーパーマーケットを改修して公共施設として活用していたことである。行政施設というと、新しく、立派な建物を建設しなければならないという固定観念を持ちがちであるが、既存の民間施設を改修し、市民が実際に利用する施設として機能させている姿を見て、その考え方を大きく変えられた。 重要なのは建物の新しさや豪華さではなく、そこに必要な機能があり、市民に利用され、地域の課題解決につながっているかどうかである。これは公共施設の老朽化や統廃合が今後大きな課題となる八女市においても非常に重要な視点だと感じた。 また、今回の視察を通じ、既に地域に存在する施設、人材、産業、観光資源などを単体で見るのではなく、それぞれをつなぎ合わせ、地域全体の価値を高めていく発想の重要性も改めて感じた。新たな施設や事業をつくる前に、今あるものをどこまで有効に使えるのか、民間の力をどう取り込めるのかという視点を、今後の議会活動でも意識していきたい。